特集
Special Issue

地域の医療を守る

日本全国で急激な人口減少、少子高齢化が進んでいます。県では、地域の皆さんが安心して暮らせるよう、医療サービスを確保するさまざまな取り組みを進めています。
今回はふたば医療センター附属病院の役割を通して、地域医療を守る取り組みと、県全体の医療人材の不足を解消するための取り組みを紹介します。

多目的医療用ヘリ

県が新たに導入し、10月29日から運航を開始した医療用のヘリコプター。ふたば医療センター附属病院を基地として、双葉地域で発生した救急患者の搬送や浜通りの医療機関から県立医科大学附属病院などの高度専門的な治療が行える医療機関への患者搬送などに対応します。これにより、搬送時間が短縮され、双葉地域における救急医療の質の向上が期待されています。このようなヘリの公立病院での導入は、全国でも例のない取り組みです。

緊急搬送訓練の様子

お詫びと訂正
10月号の6ページ「まだまだあります！ふくしまの肉」のうつくしまエゴマ豚の説明文中、「必須アミノ酸の一種『α-リノレン酸』」とあるのは、「必須脂肪酸の一種『α-リノレン酸』」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

双葉地域の皆さんが安心して戻れる環境をつくりたい

Interview 01 | ふたば医療センター附属病院 院長
田勢（たせ） 長一郎（ちょういちろう）さん

9月末までで、1日あたり平均して6.8人が来院しています。予想に比べると多いですね。看護師は29人、日中はのべ4～5人、夜間は2～3人の医師が待機しています。スタッフの配置としては十分な体制です。

戻ってこられた方の中には、1人でお住まいの方もいます。「せっかく戻っても、車で都会まで病院に通うのは大変なので助かる」「ご近所の皆さんが戻ってきていない中、病院に来て、先生たちと話すのが楽しい」という声をいただいています。

開院してからまだ半年。24時間365日稼働の救急病院ということもあり忙しく、診療時間・シフトもバラバラで、我々の中でも、同じ目線に立って語り合うことができていないと感じています。先生方、職員の皆さんのそれぞれの思い、情報交換を綿密にしながら、お互いの信頼関係をより強く構築していきたいです。職員一丸になって、地域の皆さんの健康・医療を支えていきます。

患者さんに気さくに声をかける田勢院長。「高齢者向けに徹底的にリハビリをしています。作業療法士、理学療法士も2人待機しているので、皆さんの健康づくりも兼ねて、ここをコミュニケーションの場として使っていただければ」

ふたば医療センター附属病院

震災前、双葉郡には入院治療を必要とする患者に対応できる二次救急医療機関がありましたが、震災後、すべて休止状態になりました。ふたば医療センター附属病院は県立医科大学の全面的なバックアップのもと、近隣の病院、診療所などと連携・役割分担しながら地域医療の確保を目指しています。

ふたば医療センター附属病院の役割

～3つの安心を医療面から支えます～

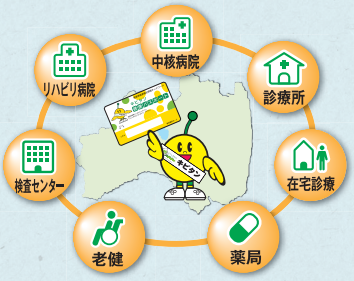
❶住民が安心して帰還し生活できる
❷復興事業従事者が安心して働ける
❸企業等が安心して進出できる

救急医療は24時間365日対応
高度な医療や専門医療が必要な場合、適切な病院に多目的医療用ヘリなどで搬送します

問 ふたば医療センター附属病院
☎0240(23)5090

「キビタン健康ネット」に参加しよう！

「キビタン健康ネット」とは、県内の医療機関をインターネットで結び、診療情報や調剤情報を共有することで、転院や在宅療養時の継続した治療、同一検査の省略、お薬の重複処方の削減などが可能になり、より適切な診断・治療を受けることができるサービスです。登録すると「キビタン健康パスポート」が交付されます。登録方法など詳しくは、福島県医療福祉情報ネットワーク協議会にお問い合わせください。



問 福島県医療福祉情報ネットワーク協議会 ☎0120(578)818

キビタン健康ネット 検索

「福島の肉」特集は、肉好きにとっては最高でした。全国的にはまだまだ無名かもしれませんが、福島県民にとっては、福島牛は最高のブランド牛です。（南相馬市40代）

皆さんへの御礼を込めて、医師として地元に還元したい

Interview 02

寿泉堂綜合病院 耳鼻咽喉科 医長
湯田（ゆだ） 孝之（たかゆき）さん

会津若松市出身で、地元に帰って医療に携わりたいという思いがありました。大学卒業後3年目は南会津地域医療支援センター、4年目は只見町の朝日診療所、研修を経て、8～10年目は県立南会津病院で勤務しました。診療所勤務当時は、内科を中心に何でも診察していました。普段心がけていたのは、現地の方言を大事にすること。私の姓が湯田なので、「地元の人」という期待をする患者さんもおられます。壁を作らないように、同じ言葉でコミュニケーションが取れるように努めました。

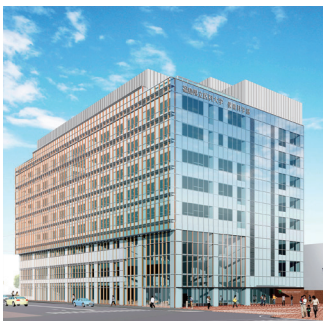
私もそうですが自治医科大学の卒業生は皆、「県民の皆さんのおかげで、医師として勤務できている」という思いがあります。今後もその思いを胸に技術を磨いて、福島県で頑張ります。

診察までお待たせすることもありますが、それでも「来てよかった、待ったかいがあった」と思ってくださるような、丁寧な説明を心がけています。

地域医療を担う医療関連人材確保の取り組み

2021年4月、県立医科大学に新たな学部を開設

県では、保健医療従事者の人材不足を解消するために、福島県立医科大学に新たな学部（仮称：保健科学部）を設置します。理学療法士や作業療法士、診療放射線技師、臨床検査技師を養成する4学科からなり、定員は4学科計145人/年の予定です。



福島市の中心部に開設される新キャンパスのイメージ

ふくしまの地域医療を担う医師・医学生交流会

県は、県内に勤務し、地域の医療に貢献する医師へ感謝の書簡を贈りました。この取り組みは、修学資金の返還などが免除される勤務の期間を終えた後も、引き続き県内の地域医療を担う医師に感謝の意を示そうと新たに始めたものです。

贈呈式の後、寿泉堂綜合病院の湯田先生から、県立南会津病院などでの勤務経験の発表があり、医師や医学生が熱心に聞き入っていました。県では、このほかにも福島県内での勤務を希望する医師と医療機関をつなぐ「ドクターバンクふくしま」事業や、地域医療の現場を県外の医師や医学生に体験していただくツアーなどを実施しています。

読者からのお便り

特集の「福島の肉」は、肉の中でもおいしい鶏肉は知らなかったので、ぜひ川俣シャモや会津地鶏を食べてみたいと思います。（郡山市 20代）